

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月26日(金)

会場: 三良坂コミュニティセンター

参加者数: 25人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>仁賀地区では、高齢化などにより地域活動が衰退しているが、これまでの軸となる行事や文化は続けていく。それ以上に、地域の安心・安全のため、防災組織を充実させなければならず、災害による被災者を絶対に出さないことが仁賀地区のあるべき姿である。高齢者や要支援者の避難指示が出た場合、開設される施設は三良坂の中心部だけで、仁賀地区は離れている。そのため、避難指示が出た場合は、旧仁賀小学校の体育館を避難所として開設する。西日本豪雨の時、約13人が避難されたが、旧仁賀小学校のトイレの使用が難しいので、一旦帰宅された方もいた。旧仁賀小学校の女子トイレは、子ども用で和式2つと洋式1つあり、しゃがみ込むと頭が前壁に当たる。費用はかかるが、トイレを広くして洋式に改修してほしい。また、サロン感覚で気軽に避難できるような場所に今後していきたい。</p>	<p>本市では、トイレの洋式化などを計画的に進めており、今後、避難所でのトイレ環境を整備していく。また、避難所サロンはユニークな考えであり、被害が出てはじめて避難することは危険であるので、早い段階で避難し地域の皆さんの命を守ることはすばらしいことである。自主防災組織を中心に、自助、共助、公助の役割を果たしながら、事前防災の取組を進めていきたいと考えており、今後の参考にさせていただく。</p>	
<p>灰塚ダムは大きな観光資源である。3月に住民自治組織が中心となり、「ハイツカ湖周辺活用検討委員会」を立ち上げているが、仁賀地区としてできることを考えている。昨年、県の天然記念物である「仁賀のシラカン群」を整備した。ハイツカ湖畔の森、サイクリング、ウォーキング、サップ、グラウンドゴルフなど、地域資源を生かしていくことが、10年後のありたい姿と思う。</p>	<p>灰塚ダムは三良坂の宝であり、三次市としても魅力的な地域資源の一つである。住民自治組織や地域の皆さん、国土交通省などの様々な方々の視点を活用して構想が練られている。来週、灰塚ダムで全日本トライアル選手権中国大会を実施される。全国の中でも希少な施設となっており、全国の皆さんが注目している。先日、国土交通省に対して、灰塚ダムの積極的な利活用に取り組んでいると伝えた。灰塚ダムは市民の命を守る施設であり、日頃から愛される施設にしていきたい。中長期的な計画の中で、一つひとつ実行していきたいので、ご意見やご協力をお願いしたい。</p>	
<p>旧仁賀小学校の校舎に、寺町廃寺跡から出土したものや農具等が置いてあるが、今後はどうされるのか。</p>	<p>寺町廃寺跡から出土したものを整理するために、格納している状況である。今後の見通しは立っていない。</p>	
<p>1989年にふるさと創生事業があった。1997年に三良坂町の長期総合計画ができ、「中心市街地の活性化」と「灰塚ダム観光産業ビジネスビジョン」の二つが重点事業であった。25年たってようやく宅地が完成し世帯が増えている。当時の長期総合計画には、知恵が詰まっていることから、再点検をして、活用してほしい。また、中心市街地の活性化について、住宅地が完成し、駅前の再開発も終わっているが、残っているものもある。事業が終わったと認識しているものも、もう一度、再点検していただきたい。三良坂地区には商店街が残っている。コミュニティを公共財の一つとして位置づけていただき、三良坂の中心市街地を広げていくという発想で事業施策をお願いしたい。そして、「灰塚ダム観光産業ビジネスビジョン」には灰塚ダムだけでなく、その周辺を取り巻く文化、福祉、住民の健康それらも含めた計画が網羅されている。その一部はできているが、三良坂地区の保育所の場所が妥当かなど、再度、点検を行っていただきたい。</p>	<p>旧町村の計画・理念・まちづくりに対しての思いは、平成16年の合併時における「まちづくり計画」に反映されている。三良坂町の振興に資する事項もあり、それらを着実に実行され、地域づくりが行われてきた。新しい三次市総合計画を策定する準備を進めている。今までやってきた事業は活性化に結びついたのか、人口減少はどうだったのかなど、様々な角度から各事業を検証し、10年後のあるべき姿を皆さんと一緒に想像し、取組を進めている。今年度は、高校生にアンケート調査を行うとともに、学識経験者の方に専門的な知識をいただき、計画策定に加わっていただいた。今後も、市民の皆さんに参画していただくように工夫していく。今後、パブリック・コメントなどで、今ある思いを伝えてほしい。</p>	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月26日(金)

会場: 三良坂コミュニティセンター

参加者数: 25人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>10年後、地域住民の方が豊かで楽しめるまちにしたいと思い、住んでいる人がまちづくりに自然に参加できるような企画を計画している。三良坂の地名を全国や世界へ発信し、一度は訪れたいと思えるまちにしたい。三良坂の観光資源は素晴らしいので、観光客には商店街を周遊して、新たな発見をしていただきたい。関係人口を増やし、町外の方が三良坂のファンになり、一緒にまちづくりを考えてもらえる仕組みを考えている。具体的には、案内機能のあるカフェをつくりたい。コーヒー豆の焙煎所やコワーキングスペースなどの日常的なものが集まるような空間と、観光客にも楽しんでいただける施設を計画している。地域の方が集う場であると同時に、チャレンジショップやイベントができるような仕組みをつくりたいと、多くの方々からアイデアをいただいている。いつも三良坂が盛り上がっているなど思えるような企画を進めていく。また、みらさか学園とも連携し、将来の仕事の選択肢の一つになっていけばいいと思う。</p>	<p>三良坂地区の商店街は活気があり、空き店舗が少なくなっているように思う。新しい構想があり、多くの人が集い、交流し、新たなイノベーションにつながっていくのではないかと。各所と連携を深め、三良坂地区に関係する人を増やし、三良坂地区の活性化を創造したい。まちづくりにはワクワク感が重要であり、10年後の三良坂地区や商店街が楽しそうだと想像できれば、自然にまちづくりに参加したくなると思う。引き続き、経過を聞かせてほしい。</p>	
<p>10年後の元気な三良坂づくりに必要なものは「人づくり」である。みらさか学園では、教育の観点から、人をつくっていくことに取り組んでいる。ここで欠かせないのは、三良坂地域の教育力である。「みらさか」まちのえきプロジェクトに中学2年生を巻き込んでいただき、学びをさせていただいている。まちづくりについて考え、未来をつくる、三良坂をつくるような子どもたちを育てている。また、みらさか学園のコミュニティスクールを具現化し、学校、家庭、地域が協働して子どもたちを育みながら、人づくり、まちづくりへとつなげたい。</p>	<p>・市全域でコミュニティスクールを浸透させ、地域で学校を支える仕組みを構築しつつある。今年度は、三次町をモデルとして進めているが、三良坂地区では、すでに地域と学校が連携していると感じる。郷土愛は大切であり、色々なことに挑戦する子どもを応援することが、大人の仕事である。市外に出ていく子どもたちが、いつか三次を思い出すことにつながる。「三次っていいな。ふるさとっていいな。」の思いが、地元へ帰省するきっかけとなる。教育委員会と連携して、郷土愛や人を育み、三次全体の元気づくりにつなげていきたい。コロナがきっかけで始まった「三次市ふるさと学生応援事業」は、三次に帰省したくても帰れない学生に、ふるさとの加工品や農産物を届ける事業で、たくさんの方の反響をいただいた。生産者の生産意欲が向上し、職員も励みになる事業となった。ふるさとを思い出す、郷土愛を育む取組は重要であると考えている。</p> <p>・学校教育では、学力とともに、人づくりが重要である。教育委員会では教育ビジョンを策定したところである。現在の小学校・中学校の子どもたちが、社会の中心となって活躍する年代となった際に、どのような人に育ってほしいかを見据えておかなければならない。子どもたちが郷土を愛する心を持つことが、人づくりには大切であり、地域の力が必要となる。コミュニティスクールは、地域の皆さんに学校の経営者になっていただき、一緒に子どもを育てていく。今後とも地域の皆さんのお力添えをいただきたい。</p>	
<p>平成元年のふるさと創生事業の予算を、三良坂では、定期預金にして、人づくりのために残した。若者(20代・30代)が自由に、研究に使えるように考えた。合併により整理されたが、再度、定期預金にしていただき、毎年、若者たちの将来の研究に使えるようにしてほしい。</p>	<p>合併時に、各町村から思いのこもった基金を持ち寄っていただき、有効活用させていただいている。今、164億円程度の基金を積み上げている。皆さんの思いが少しでも結実するように、先人の歴史に学びながら、今後の地域づくりに生かしていきたい。</p>	
<p>本日のようなまちづくりトークに、若い人が参加できるような仕組みづくりをしてほしい。30代や40代の子育て世代の方を中心に、10年後について話せるようにしてほしい。</p>	<p>色々な世代が参加し、若い人が地元を未来を思い、どのように想像するのかが重要なことである。今、まちづくりトークは19会場で実施しているが、昨年度は、テーマ別の意見交換会も実施した。子育て世代の皆さんを対象にした、テーマ別の意見交換会なども検討する。</p>	